Media Information

令和２年２月４日　神戸新聞

かたりば。の様子が掲載されました。

高校・大学生と福祉施設職員
スマホめぐり議論
大久保町

世代を超えて楽しく議論する参加者ら＝明石市大久保町大窪

高校生や大学生と、福祉業界で働く職員が集まり、お茶やお菓子を楽しみながら語り合うイベント「かたりば。」が、明石市大久保町大窪の介護施設「大久保苑」であった。「もしも、スマホがなかったら」をテーマに議論した。

同施設を運営する社会福祉法人「三幸福祉会」と関西福祉大学（赤穂市）が昨年7月、福祉人材養成に関する協定を締結。その一環で、学生が福祉業界の職員と議論し、コミュニケーション能力を高める機会をつくろうと、11月に同イベントを初開催した。

2回目になる今回は1月31日にあり、高校生から社会人まで14人が参加。「昔はテレホンカードを使っていた」「（初めて持った携帯電話は）ガラケーではなく、いきなりスマホ」など、それぞれが世代間の違いに驚く場面も。高校生や専門学校生から、認知症の人への接し方や福祉の職場についての質問も出た。

会場からは、孫と話すためにスマートフォンの使い方を覚えようとする祖父母が多いとの指摘も。「若者がスマホの使い方を教える講習会のような交流法もできるのでは」との意見も出た。

参加した鍵谷清香さん（17）＝明石南高2年＝は高齢社会で中高生が手伝えることを考えているという。

「普段はインターネットで調べて、知っているつもりになってしまうけど、実際に会って話すと学ぶことが多かった。一緒に食事をするだけで喜んでもらえるなど、高齢者にとっては何でも刺激になると分かった。自分ができることからやってみたい」と語った。

◆

今後も2カ月に1度のペースでイベントを開催する予定で、テーマは毎回変えるという。

次回は4月3日午後5時から。同法人の田村智子さん（41）は「介護など、福祉はだれでも身近にあること。ぜひ、福祉に興味のない人にも来てほしい」と話していた。（長沢伸一）

Seikaen.jp